

2022.11.6(日)

# 入来文書 資料読書会(読み合わせ会) — 質問事項

入来花水木会

朝河貫一博士の著書『入来文書—The Documents of Iriki』の翻訳者である矢吹 晋先生(横浜市立大学名誉教授)が、先生の著書『天皇制と日本史 —朝河貫一 から学ぶ—(集広舎、2021年7月発行)』より抜き出して提示して下さった6つの資料の読書会(読み合わせ会)で出された質問事項です。矢吹先生、よろしくお願い致します。

**質問1.** いずれの本でも「入来文書」に言及していない(朝河史学を黙殺している)のは、やはり 「これは永原にとってたいへん不都合な見解であった。やはり無視するほかはない」ということでしょうか? [資料(1)関係]

**質問2.** 大正14年(1925年)に印刷が完了した日本文『入来文書』と昭和4年(1929年)春に完成した英文「The Documents of Iriki」(入来文書)の違いを教えてください。[資料(2)関係]

**質問3.** 在家と名田の意味は、違いを教えてください。[資料(3)関係]

**質問4.** 武士と農民の階級自身が完全に区別されたものではない、という意味でしょうか。[資料(3)関係]

**質問5.** 「地頭が領主と農民の間に介入した」というのであれば、当時の入来において領主はだれだったのでしょうか。[資料(3)関係]

**質問6.** 「武士階級においても、農民の側においても、もはや純粹に封建的とは言えない」とありますが、「封建的」という定義を教えてください。[資料(4)関係]

以上